

特色ある学校づくり

- 地域の教育力を探る -

学校経営研究会議

小林 洋一¹ 峪 正人² 石原由美子³ 関 憲⁴ 大久保 忠⁵ 大久保 光⁶
河野 勝彦⁷ 林 英和⁸ 鎌方 環⁹ 仁藤 公子¹⁰ 垣東 節夫¹¹

要 約

平成14年度から全面実施される新学習指導要領では、児童生徒の生きる力をはぐくみ、個性を生かす教育を行うために、児童生徒や地域社会の実態を踏まえ、各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めることが求められている。そのためには、学校を取り巻く家庭や地域社会の人材・施設や様々な活動との連携を図った教育を実践し、開かれた学校づくりの一層の推進を図ることが大切と考えられている。

そこで本研究会議では、全市の小・中学校が現在取り組んでいる地域と学校の協力体制がとられた活動を調査し、各学校がどのように地域とかかわり、どのように地域の力を活用しているのか、また実施上の課題は何なのかに視点をおいて整理し、分析・考察した。そして、今後特色ある学校づくりを進めていく上で求められる地域の教育力とは何かを探り、各学校の学校経営上の参考資料として活用されることを目的として研究を進めた。

キーワード：特色ある学校，地域教育力，地域連携，学校経営

目 次

主題設定の理由.....	6	4. 特色ある学校づくりについて.....	17
調査内容と方法.....	6	(1)成果の要因の分類と考察	17
調査の結果の分析と考察.....	7	(2)特色ある活動を継続，発展，創造するための課題.....	18
1. 調査結果の概要.....	7	(3)校長として求めるもの	19
2. 小学校の特色ある活動.....	8	研究のまとめ.....	19
(1)活動の分類表	8	1. 研究の成果	19
(2)活動の分類と考察	10	2. 今後の課題	20
(3)活動方法の分析	12	3. おわりに	20
3. 中学校の特色ある活動.....	13	参考文献.....	20
(1)活動の分類表	13	指導助言者.....	20
(2)活動の分類と考察	15		
(3)活動方法の分析	16		

¹川崎市立子母口小学校長

²川崎市立梶ヶ谷小学校長

³川崎市立白鳥中学校長

⁴川崎市立菅中学校長

⁵川崎市立宮内中学校長（平成12年度）

⁶川崎市総合教育センター研修指導主事

⁷川崎市総合教育センター研修指導主事

⁸前川崎市総合教育センター指導主事（平成12年度）⁹前川崎市総合教育センター教育課題研究室主幹（平成12年度）

¹⁰川崎市総合教育センター - 教育課題研究室長

¹¹前川崎市総合教育センター教育課題研究室長（平成12年度）

主題設定の理由

平成14年度から新学習指導要領が全面実施される。これからの学校教育においては、新教育課程のねらいの一つである「各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること」が強調されている。そして、各学校が特色ある教育活動を展開するために、教育課程の一層の大綱化と運用の弾力化、一単位時間や時間割の弾力化、「総合的な学習の時間」の創設など、これまでには見られなかった大きな基調と枠組みの転換が図られている。そして、教育課程審議会の答申で強調されている説明の中に、「特色ある教育活動を展開する上で、各学校が、児童生徒が家庭や地域社会において行った体験や活動を生かした指導に努めるとともに、家庭や地域社会の人材・施設や様々な活動との連携を図った教育を行うことは、極めて意義のあることと考える。こうした取組を通じ、学校と家庭・地域社会が十分連携を図るとともに、開かれた学校づくりを一層推進していくことが大切である」とある。

幸いなことに川崎市では、昭和61年度より、「学校・地域連帯モデル事業」が始まり、平成2年度には全市の小・中学校に、「学校・地域連帯事業」として定着している。この事業を改めて見直し、より活性化することが、これからの教育に求められているものととらえることができる。

そこで本研究会議では、前研究会議の成果を踏まえ、全市の小・中学校が「特色ある学校づくり」にどのように取り組んでいるかを、地域の教育力を探りながらその実態を分析することにより、これからの学校経営上の参考資料として活用に供することを目的として研究を進めることとした。

調査内容と方法

この調査は、分析する観点を考慮に入れて作成した記述式のアンケートである。全市の小・中学校を対象に、平成13年3月に実施した。

地域と学校の協力体制がとられた活動で、成果が得られたと思う主な活動を3つ記述する。

活動名、具体的活動内容、地域とのかかわり、活動開始年、活動期間、主な位置付け、費用について

活動の集団について記述する。

全校、学年、学級、委員会、クラブなど

次の3つの視点で、得られた成果について記述する。

児童生徒からみて、地域・保護者からみて、教職員からみて

活動の成果が上がった主な要因を複数選択する。

教職員の共通理解・認識、地域人材の積極的な協力、教育ネットワークの組織力

特色ある活動を継続、発展、創造するための課題を記述する。

校長として「特色ある学校づくり」のために、教職員に求めているもの、自分の考えを記述する。

以上6つの観点で、主に記述式で回答を求めた。特色ある活動については、小・中学校別に分析や考察をし、特色ある学校づくりについては、小・中学校合同で分析や考察をした。全校の調査結果をグラフ化し、見たときに分かりやすいまとめとした。ただ、平成12年度に実施した調査であるので、

その後の各学校の研究の進展によっては、様々な変化が見られていることであろう。

調査結果の考察と分析

1. 調査結果の概要

地域の教育力を導入した特色ある教育活動について、全市の小・中学校から合わせて455の活動事例の回答を得た。

全体として、これまでに行われてきた川崎市独自の教育活動活性化事業や学校・地域連帯事業の成果が、「総合的な学習の時間」など新教育課程の試行に生かされており、学校や地域環境及び実態に応じた多彩で特色ある活動が展開されている。

この調査は、「地域の教育力導入」と「手ごたえのある3つの活動」についての回答によるものであり、かなり限定された内容となっている。したがって、実際の学校現場では、地域の教育力に拠らない特色ある教育活動も多々あり、3つ以外にも様々に実践している。さらには、計画段階の活動や試行段階の活動を含めると、さらに多様な事例が存在するものと思われる。しかし、ここでは調査段階で厳選した特色ある活動について集計しているため、調査時の川崎市の特色ある教育活動の実態が十分に反映されていると考える。

各学校から寄せられた活動事例は多彩を極めており、そこで、次のように活動の形態から大きく3つの項目に整理し、さらに各項目を内容ごとの観点で分類した。

児童生徒が地域に出ていく活動・・・「地域に学ぶ」「ボランティア活動」「地域交流」
 地域の人を講師として招く活動・・・「授業の講師」「行事などの講師」
 地域の人々を学校に招く活動・・・「地域の協力」「地域の人々との交流」

この項目で各学校から回答を得た活動事例数をまとめると、表1のようになる。

表1 特色ある活動数の集計

形 態	分 類	小学校		中学校		計	
		数	数	数	数	数	数
児童生徒が地域に出ていく活動	地域に学ぶ	54	82	47	77	101	159
	ボランティア活動	24		21		45	
	地域交流	4		9		13	
地域の人を講師として招く活動	授業の講師	161	197	9	22	170	219
	行事などの講師	36		13		49	
地域の人々を学校に招く活動	地域の協力	3	43	29	34	32	77
	地域の人々との交流	40		5		45	
計		3 2 2		1 3 3		4 5 5	

この結果を見ると、小学校では「地域の人を講師として招く活動」が多く、中学校では「生徒が地域に出ていく活動」が多いという特色があることが分かる。小学校では、以前から地域の教育力を教育現場に取り入れる手法が浸透しており、教育効果が上がることを実感していると読みとることができる。一方、中学校では職業体験を中心とする体験学習への取組や、地域ボランティア活動等への参加が近年特に進んでいる現状が現れているものと考えられる。

さらに、表2 (pp.8~9)では小学校、表3 (pp.13~14)では中学校の具体的な活動内容とその主な成果を一覧表にし、それぞれの形態ごとに分析して考察を加えた。

2 小学校の特色ある活動 (1) 活動の分類表(表2)

児童が地域に出ていく活動

分類	活動内容	数	成果
地域に学ぶ	・職業体験	3	・学習後も関心が深まった ・地域の教育力を実感した
	・地域理解	17	・詳しく知りたい, 知る楽しみ, 地域との触れ合いの効果大 ・教師も実感し再発見した
	・現地学習 (農業, 商業, 工場)	18	・地域に様々な人材がいることを知る ・職業や技術を伝える機会を得た
	・地域環境	4	・教科書や資料を越えるインパクト ・共に働くことで, お年寄りから多くのことを学ぶ
	・人に出会い学ぶ	7	・相手を思い自己の将来を考えた ・子どもたちに接する喜び, よい体験
	・伝統産業体験	3	・昔の人々の苦勞を知る ・地域をあげての協力体制
	・国際理解教育	2	・身近な町のよさの再発見 ・地域に関する教材研究を深める
ボランティア活動	・地域行事への参加, 美化活動	5	・教師の指示で参加したが意欲的 ・ごみ減量化や公園美化の意識の高揚
	・施設訪問	19	・家族総出での触れ合い ・児童が地域に親しみをもつきっかけ ・双方向の交流で垣根が低くなった ・学校, 子どもを取り巻く人的・物的環境の豊かさ
地域交流	・幼稚園, 保育園交流	3	・幼小連携, 下級生の思いやりに期待 ・自分を見つめるよい機会
	・障害者との交流体験	1	・地域の中でいろいろな人とかわって生活していく大切さを学ぶ ・親子で福祉について考える機会

地域の人を講師として招く活動()

分類	活動内容	数	成果
授業の講師	・人権尊重, 共生教育	1	・環境問題や人とのかわりを意識 ・保護者にねらいを理解してもらえる
	・福祉教育	12	・心で通じる体験ができた ・偏見をもたずに喜びを感じる ・触れ合いが共生の心を育てる
	・環境教育	2	・家庭教育学級, 保護者との連携 ・地域を大切に思う心が育つ
	・国際理解教育	7	・省エネの意識付けに役立った ・見る目が変わり, 外見でなく皆同じ ・異国の文化に触れ, 身近に感じる
	・平和教育	2	・地域を理解し, 国際理解を深める ・体験談に真剣に聞き入った
	・総合的な学習の時間 (課題別学習)	6	・普段の授業にない印象深さ ・専門的な話や技術に感動していた ・多様な学習形態が計画できた
	・実習 (調理, 野焼き, 物づくり)	11	・地域と子どもとの結び付きが深まる ・町内の専門家がよき相談相手に ・実体験ができて楽しんだ ・汗して子どもの力で作ることができた
	・稲作, 園芸	20	・指導者が新鮮で内容もよかった ・学校や町の環境に関心をもった ・命の尊さや収穫の喜びを実感した
	・読み聞かせ, 語り聞かせ (図書整理)	23	・専門家の技術を教師も学んだ ・本が好きになり習慣づいた ・子どもと交流する楽しみ, やり甲斐 ・多くの子どもを知ることができた

地域の人を講師として招く活動()

分類	活 動 内 容	数	成 果	
授 業 の 講 師	・ 日本文化 (茶道, 華道, 舞踊, 太鼓)	12	・ 伝統文化のよさに触れ愛着をもった ・ 子どもたちに生の体験をさせられた ・ 地域の文化を受け継いでくれた	
	・ 昔のくらし, 遊び (生活科)	28	・ 言葉の使い方や挨拶なども身に付く ・ 昔の人々の生活や願いが分かる ・ 子どもと触れ合える喜び	
	・ クラブ, 委員会, パソコン 指導(教育ボランティア)	18	・ 専門家の指導で新鮮な体験ができた ・ 基本操作ができて学習活動が楽しい ・ 自主行動と安全確保ができた	
	・ 人に出会い学ぶ	9	・ 地域と子どもの結び付きの深まり ・ 目標をもって生きる意識をもった	
	・ 伝統産業体験	5	・ 教科書だけの学習では得られない実 感があるし, 地域の熱い思いがある	
	・ 英語教育, 英会話	3	・ 国際的なコミュニケーション能力の 基礎を培っていきける ・ 違いを認め, 互いのよさを認め合う	
	・ 相撲指導	1	・ 地域の伝統を子どもに伝える	
	・ 異校種間交流	1	・ 子どもたちとの触れ合いが深まる	
	行 事 の 講 師	・ 子どもまつり体験コーナー バザー	25	・ 人々から多くのよさを学んでいる ・ 一緒に活動を楽しむことができた ・ 協力, 創造, 主体的活動になった ・ 人材を知り, 一体となる好機
		・ 各種活動における補助 (盆踊り, 料理など)	9	・ 地域が積極的に働きかける ・ 学校への協力意識が高まる
・ 親子教師交流		1	・ 大人との会話の仕方, 礼儀を知る	
・ 演奏会(教師と地域の方々)		1	・ 豊かな親子関係をつくるきっかけ ・ 音楽を通しての交流が素晴らしい	

地域の人々を学校に招く活動

分類	活 動 内 容	数	成 果
地 域 の 協 力	・ おはよう運動	1	・ 登校の様子を知り指導に生かされた ・ 地域とのつながりが深まった
	・ 保護者, 地域合同活動	2	・ 児童理解を一層深めた ・ 多様な学習活動が展開できる
地 域 と の 交 流	・ 子どもまつり, バザー	19	・ 地域, 保護者が学校を知る機会 ・ 授業以外での体験の導入 ・ 地域との連携が図られた
	・ 運動会 (地域老人会, 地域参加)	3	・ 高齢者に対する理解の一助となる ・ 地域行事に参加するようになった
	・ 学習発表会	4	・ 三者が触れ合うよい機会 ・ 子どもの満足感
	・ 音楽会	1	・ 異学年交流, 歌う喜びをもった
	・ 収穫祭	1	・ 地域の人との交流ができた ・ 学校理解ができた
	・ 集会, ふれあい給食	6	・ 地域の人と触れ合いその後も交流 ・ 豊かな人間性に触れ, 多くを吸収 ・ 子どもとお年寄りの楽しい交流
	・ 養護学校とのクラブ交流	1	・ 相手を思いやる心が育つ ・ 保護者, 地域に伝わり温かく見守る
	・ 地域理解, 体験	1	・ 地域文化を知り, 町内会の人々との 触れ合い
	・ 配食サービスボランティア との交流	1	・ 専門的な分野に触れる ・ 社会人との関係, 年齢を超えた関係
	・ 親子ふれあいまつり	1	・ 体験を通して協力することの大切さ を知る
	・ 幼稚園交流	2	・ 思いやりとリーダーシップが育つ ・ 教職員の相互理解が深まった

(2) 活動の分析と考察

新学習指導要領の移行期にあたり、地域の教育力を導入した特色ある活動が積極的に展開されている。これらの活動事例を分類別に分析・考察し、これからの指針としたい。

児童が地域に出ていく活動

生活科や社会科の学習では、体験や調査・見学を取り入れることが特に重視されるようになり、記録ノートを携えて地域を歩いている子どもの姿が多く見られるようになった。

ア．地域に学ぶ

職業体験では、お店の店員を2時間ほど体験している。傍観者ではなく直接体験することによって自分のこととして受け止め、以後の学習に深みを増している。地域を理解する学習では、町の自然や産業、施設、商店、会社、伝統芸能などについて、自分の足で歩き地域の人々の話に耳を傾け、町を再発見している。そして、詳しく知りたいという意欲をもち、知る楽しみを抱いている。また、専業農家や近隣の工場などでの現地学習では、教科書や資料集にはない専門的な学習をしている。伝統産業では、技術を守る苦勞を体験的に学んでいる。人に出会い学ぶ活動では、自分が関心をもつ身近な人物から職業観や生き方について学び、自己の生き方を考えている。国際理解教育では、外国人学校や外国の姉妹校との交流の事業が挙げられる。

これらの活動は主に教科の学習やその発展、総合的な学習の時間で行われ、五感を通した生きた教育が子どもに強い興味・関心をもたせている。そして自分の町の特徴を「よさ」として受け止め、愛着をもつようになっている。また地域の人々も、自分の職業や専門分野を理解してもらえたことに喜びを感じ、子どもたちを温かく見守りながら交流を行っている。

イ．ボランティア活動

地域の人と共に公園や道路を清掃したり、空缶や空瓶を回収したりする美化活動の事例では、環境を意識する動機付けになるとともに、大人から多くのことを学び、地域への帰属意識をもっている。

ウ．地域交流

交流を目的に、福祉施設や幼稚園・保育園を訪問する活動がある。こうした活動の中には、当初は「～してあげよう」という奉仕的な活動のつもりでいたのに、「させていただく」というボランティアの素地となっているものも多い。普段触れ合えない人と交流することにより、接し方が分かり「自分にもできることがある」という自信につながっている。また、施設に働く人々に対して尊敬する心をもち共感を抱いて、その後も活動を継続している例もある。双方向の交流によって情報交換が進み、学校との垣根が低くなる結果も生まれている。

地域の人を講師として招く活動

総合的な学習の時間が創設され、「合科的・関連的な活動」が重視されたことに伴い、地域の人を教室に招いて、専門的で生きた授業を提供してもらう活動が、近年急激に増えている。

ア．授業の講師

総合的な学習の時間に関連した活動として、人権尊重・共生教育、福祉教育、環境教育、国際理解教育、平和教育など、今日的な諸課題を取り扱う事例が目立って多くなっている。

国語の説明文の学習から発展した福祉教育に、盲導犬を連れた目の不自由な人や盲導犬訓練士、点字翻訳者を講師として招く活動がある。「みなさんと同じように毎日を一生懸命生きています。」とい

う話に、子どもたちはこれまでの偏見を拭い去り、共生や福祉への関心を強めている。また、外国人や海外生活経験者から外国の生活や文化、ものの見方や考え方についての話や、町のお年寄りから戦争体験談を聞いたりする授業も行われている。

地域の人に教壇に立つていただき、直接話を聞いたり体験したりするこれらの活動は、臨場感にあふれ新鮮な印象を子どもに与えている。予想外の展開や強いインパクトによって、子どもたちは自分の課題を修正したり新たな解決方法を考えたりして、課題が課題を生む総合的な学習の時間となっている。講師を務めた地域の人も、子どもたちの学びの深さに驚き、それに応えようと確かな情報をさらに準備したり個々に丁寧に対応したりして、双方向でかかわりを深めている。

自分たちが育てたカボチャを使い、ケーキ職人から手ほどきを受けてパンキンケーキを作るユニークな事例もある。地域の陶芸クラブの人々による野焼きの焼き物教室も興味深い。こうした実習を伴う活動は、楽しみながら専門的な技術に触れる幅広い体験となっている。

海苔作りや稲作・園芸などの地域産業について技術指導を受ける活動は全市的に多い。川崎区の「海苔」は特筆すべきであり、中部・北部の「多摩川梨」も取り入れられている。南北に長い川崎には様々な地場産業があり、特色ある学校づくりに結び付いている。特に、海苔作りや稲作では、「伝えられるのは唯一学校だけ」と、地域の人々も意欲的である。

最近、多くの学校で行われている活動に「本の読み聞かせ」がある。読み聞かせを目的としたボランティアグループが広範に存在し、小学校に入っている。グループの人たちは、子どもに楽しんでもらおうと、推奨する本を選び、パネルシアターや大型絵本などにしたり、朗読の仕方を研究したりして子どもたちの前に立っている。聞き手の子どもたちも本の世界にひきつけられ、読書量が徐々に増えつつあるという回答もあった。またボランティアの方が図書室の整備や相談員を行っている例もある。

お茶やお花、舞踊、和太鼓などの日本文化、昔の暮らしや遊びを伝承する教室も従来から多く取り入れられている。また、獅子舞やお囃子など地域に伝わる伝統芸能もある。子どもにとって、伝えられたことができるようになることは、うれしく楽しい。また、講師にとっても伝える喜びがあり、継承者づくりにもなると好評である。

クラブ活動や委員会活動の時間に 教育ボランティアとして授業に入ってもらう事例も極めて多い。クラブ活動では、茶道、華道、料理、手芸、ハンドボール、バドミントン、パソコン、空手、写真、アニメ、ボランティア、アウトドアなどがあり、委員会活動では、飼育、パソコンなどがある。

イ．行事の講師

子どもまつりのイベント「体験コーナー」の講師として地域の人に参加していただき、子どもたちは楽しいひとときを過ごしている。

地域の人々を学校に招く活動

学校の催し物に地域の人を招待する活動を、特色として挙げている学校がある。子どもとの触れ合いを工夫して楽しんでいただくとともに、学校への理解を図るようにもしている。

ア．地域の協力

地域の人々におはよう運動を行っていただき、礼儀の指導と挨拶を通じた交流を図っている。

イ．地域との交流

子どもまつり、バザー、運動会、学習発表会、音楽会、子ども座談会、収穫祭、ふれあい給食など

のイベントに地域の人々を招待している。活動形態を様々に工夫しているところに特徴があり、その後手紙を交換するなど、触れ合いを深めている。

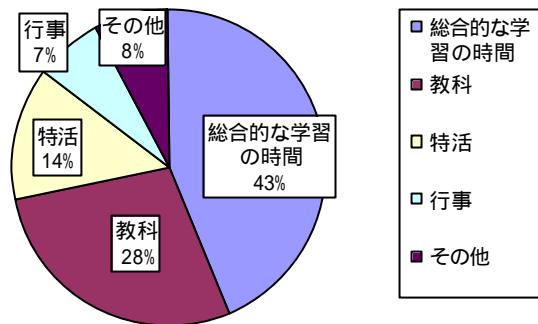
(3) 活動方法の分析

活動の位置付け

多くの学校で、教科や総合的な学習の時間、特別活動において教師以外の地域の人が教壇に立つ学習に高い教育効果を感じている。

「特色ある活動」の主な位置付け（活動数で集計：複数回答有）とその割合（円グラフ）

位置付け	活動数
総合的な学習の時間	171
教科	109
特活	53
行事	28
その他	30
合計	391

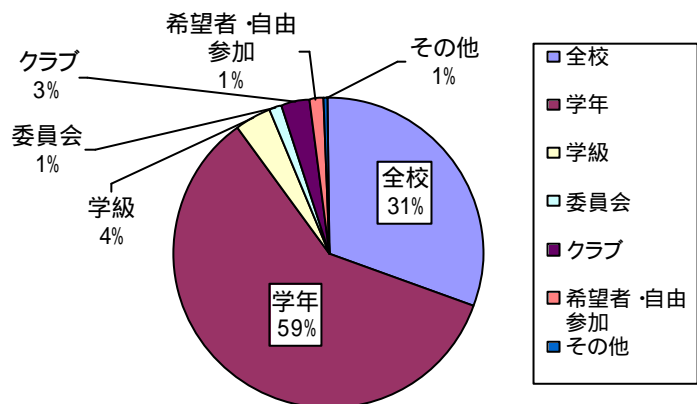


活動の集団

学年及び全校で教育活動を行う事例が際立っている。学級単位で行う場合の、講師が何度も来校することを控えたためと思われる。しかしこのことによって、学級の枠を越えた教育活動のよさを感じる結果にもなっている。

「特色ある活動」の集団（活動数で集計：複数回答有）とその割合（円グラフ）

活動集団	活動数
全校	101
学年	197
学級	13
委員会	3
クラブ	11
希望者・自由参加	4
その他	2
合計	331

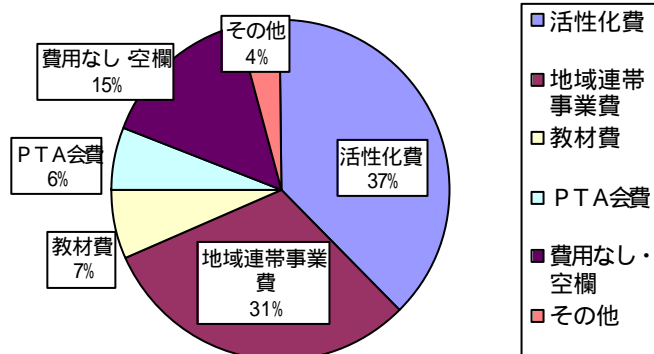


活動の費用

ほとんどの学校が教育活動活性化事業費と学校・地域連帯事業から支出している。川崎市の独自な事業が功を奏していることが顕著に表れている。一方、PTA会費や無報酬の事例もあり、予算化について課題が残る。

「特色ある活動」の費用（活動数で集計：複数回答有）とその割合（円グラフ）

活動費用	活動数
教育活動活性化事業費	151
学校・地域連帯事業費	124
教材費	27
PTA会費	23
費用なし・空欄	60
その他	17
合計	402



3 中学校の特色ある活動 (1) 活動の分類表 (表3)

生徒が地域に出ていく活動

分類	活動内容	数	成 果	分類	活動内容	数	成 果
地 域 に 学 ぶ	・職業体験 地域にある職業の体験	35	<ul style="list-style-type: none"> ・視野が広がり進路指導に役立った ・働くことについて考える機会になった ・地域との触れ合い, かかわりによって親近感が深まった ・自分の将来を見つめる機会となった ・新たな驚きや感動があった ・相互理解が深まった ・仕事に対する誇り, 責任感, 大変さなどを実感し, 自信と責任感がでた ・社会人としてのマナー, 常識を学んだ ・雇用者が中学生を見るよい機会となり, 理解が深まった ・事後も地域の教育力としての機能をもてることが期待できた ・地域の職業人としての具体的な生活を知ることができた ・新たな気持ちで地域の再発見をすることができた ・生徒のふるさと意識の高まりを実感でき中学生に対する認識が深まった 	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	・ボランティア活動 地域美化活動等への参加	21	<ul style="list-style-type: none"> ・大変さ, 厳しさを学んだ ・自分の町を知り愛着をもてた ・美化意識の高揚 ・町会, 自治会の人たちとの触れ合いができた ・与えられた仕事に対するの責任感, 他への配慮ができるようになった ・動植物への思いやりの心が育った ・生徒自身が活動により自信をつけた ・生徒の活動が地域から見える形で展開でき, 多大な感謝をされ, 好感をもたれた ・交流によって中学生というものの理解が深まった ・生徒, 教師が学区内の様子を知ることができた ・町会, 自治会の方とのコミュニケーションができた ・共に活動することにより, 生徒, 教師の一体感が深まった ・地域に出ることが多くなり, 地域の学校という意識が教師に生まれた ・資源回収から得た利益を生徒に還元することができた
	地域の優れた技術者 との交流体験		<ul style="list-style-type: none"> ・仕事に対する誇り, 責任感, 大変さなどを実感し, 自信と責任感がでた ・社会人としてのマナー, 常識を学んだ ・雇用者が中学生を見るよい機会となり, 理解が深まった ・事後も地域の教育力としての機能をもてることが期待できた ・地域の職業人としての具体的な生活を知ることができた ・新たな気持ちで地域の再発見をすることができた ・生徒のふるさと意識の高まりを実感でき中学生に対する認識が深まった 		花いっぱい運動への参加		
	農業調査と体験		<ul style="list-style-type: none"> ・事後も地域の教育力としての機能をもてることが期待できた ・地域の職業人としての具体的な生活を知ることができた ・新たな気持ちで地域の再発見をすることができた ・生徒のふるさと意識の高まりを実感でき中学生に対する認識が深まった 		資源回収活動への参加		
	・現地活動, 学習会	11	<ul style="list-style-type: none"> ・文書や電話での依頼等実際に行うことにより, 方法, 知識が身に付いた ・机上の学習より直接訪問し話を聞き感動した ・教師自身も地域に関心をもった 	地域交流	・地域行事への参加 盆踊り, 祭礼等への参加	9	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に対しての, 地域の期待が高まった ・活動を通して相互の理解, 関心が高まった

地域の人を講師として招く活動

分類	活動内容	数	成果
授業の講師	・職業講話，文化講演 ・講話	9	<ul style="list-style-type: none"> ・職業に対する理解が深まった ・その職業を知り興味関心が高まった ・職業に対する大人の真剣さが理解できるようになった ・福祉について共に生きることを実感した ・職業に対する意識が芽生え，プラスになった ・今後の職業体験につなげていきたいという意識が生まれた ・子どもに社会の大切な一面を伝えることができた
行事などの講師	・教育ボランティア，部活動，特別講座，文化祭などで	13	<ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアの現状など世界に対する目が広がった ・障害者に対して配慮して行動できるようになった ・ボランティア活動の現状などを知るよい機会となった ・実際に体験した人の話を聞き，具体的な理解ができた ・今までの授業では得られない，多分野に渡る講師の話で楽しんで参加できた ・自分の興味あるものに取り組み，趣味や特技を伸ばすことができた ・意欲が他の場面にも発展した ・身近な社会に関心を示してきた

地域の人々を学校に招く活動

分類	活動内容	数	成果
地域の協力	・バザー，学校祭	25	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者と共に，一つのことを成功させた充実感や連帯感をもつことができた ・大人と一緒に作業することにより，親以外の大人を知ることができた ・ボランティアとして楽しみながら活動することができた ・奉仕する精神や協力心が養われた ・中学生の言動や行動を理解することができた ・学校の様子を知ることができて協力の手立てがわかった ・日頃見ない生徒の一面を知ることができた ・地域の伝統芸能を理解してほしいと積極的に参加した ・学校への協力依頼をしやすくなった ・総合的な学習の時間へと発展させていくヒントを得た
	・おはよう運動	4	<ul style="list-style-type: none"> ・常に地域に見られているという自覚が出てきた ・生徒への声掛けの機会となり，近所でも声が掛けられるようになった
地域との交流	・地域の人々との交流	1	・地域のまとまりができた
	・高齢者の授業参加	1	・高齢者の学ぶ姿勢に感銘している
	・留学生との交流	1	・国や民族など，視野が広がった
	・子ども座談会	2	・自分の住んでいる町を見直すよい機会となった

(2) 活動の分析と考察

生徒が地域に出ていく活動

全体としては、生徒が地域に出ていく活動が一番多い。生徒は地域に出ていくことによってたくさんの経験を積んでいる。また、日頃経験できない活動をすることによって新たな感動、言い換えれば「地域再発見」のような意識が見られる。地域の人、特に仕事や専門技術に打ち込む大人と交流することによって、大人というものの凄さや素晴らしさ、そして大変さなど多くのことを学んでいる。こうして実際に大人と触れ合い、肌で感じることで地域に生きる子どもたちは成長していくのであろう。そうしたことが感じられるからこそ、一層「地域に出ていく活動」が活発になる要因となっているようである。

例えばある学校では、長年地域から農園を借り、地域の農業指導者から指導を受けながら作物を栽培し、自然や自然環境について考える授業を行っている。また、収穫に際しては地域の老人会と保護者が生徒と共に参加している。収穫された農作物の一部は一人暮らしの高齢者の食事に提供している。この地域との交流はさらに発展し、ここ数年、民生委員と協力し生徒会が中心となって、年末に一人暮らしの高齢者への年賀状の絵葉書づくりに発展している。これらの活動は地域からも大変好評である。

こうした活動の積み重ねは、将来地域への愛着心、地域への誇り、地域へのふるさと意識を形成することに大きく貢献するのではないか。都市化の中で棄民現象（ふるさと意識の喪失）がいわれることに対して、地域に出る活動はそれに対抗する一つの方向性を示唆しているといえるのかも知れない。

地域の人を講師として招く活動

子どもたちには、地域の大人がどのような役割を果たしているか、実のところ余り見えていなかった。しかし、「隣のおじさん、おばさん」が町会や自治会で地域の行事にたくさん貢献していることを学んで、以前と違った見方をしてきたようだ。地域防災や訓練のこと、通学路の安全について、商店街の活性化等地域振興について、地域と市や区との協力体制について、地域の環境保全、美化について等々、子どもたちの知らないところで様々な協力体制を敷いているお陰で、過ごしやすい街になっていることを理解した。

また、講師としておいでいただいた方々には様々な人材がいる。長年地域に貢献し、地域の歴史の生き証人のような人、社会に貢献しその活動を認められた人、優れた技術をもっている人がいる。そうした方々の様々な苦労話を聞くことによって、彼らの仕事や生きることへの誇り、地域を愛する熱意の中から子どもたちが学ぶものは大変多いのではないか。「普通の人だと思っていた地域の方が、誇りをもって仕事に励んでいらっしゃる姿に感動しました。」という子どもの感想も多く見られた。

また、地域の方からも、現代の中学生に対する「コンビニにたむろする少年たち」というイメージが払拭され、「ほとんどは真面目に生活する中学生」「意外としっかりとした中学生」ということが分かったという感想もいただき、学校を訪問し中学生と交流することによって若い世代に対する理解が深まった面が多数見られた。

地域の人々を学校に招く活動

体育祭、文化祭そしてバザー等では、日頃の授業と違った表情を子どもたちはする。それは同じ一人の生徒でも、教科が違くと全く違った動きをするのと似ている。さらに、子ども、教職員、PTA、地域が一緒になって活動する姿は地域の方々からも共感を呼び、

一体感，充実感が増幅されていく。例えば，子どもたちの活動を費用面で支援するためのバザーという色彩が影を潜めた今，学校，地域一体感形成のためのイベントという傾向が色濃くなってきた。そこで活動する子どもたちは，いろいろなアイデアを自分たちで考え，ステージ発表したり，創作品特売コーナーを設けたり，売り子となって活躍したりする。

また，PTAや地域住民も地域の立場から学校を見て，子どもたちの生活や学校の様子が分かってくると，学校への働きかけや協力体制も出てくる。実際アンケートの中に「学校に行くことによって地域住民としてどのように学校に働きかけたらよいか分かったので，これからは積極的に学校にかかわりたい。」という回答も見られた。

さらに，学校を広く開放し情報発信することによって，地域からの働きかけもつくられてきている。地域のあるボランティア活動家は，外国の留学生を地域に招き学校との交流会を毎年行っている。そして，地域の良さや学校の紹介をボランティアが行っている。子どもたちは行事の紹介や内容について説明したり，留学生も在籍する学校の紹介や誰もが歌える歌と一緒に練習したりと楽しいひとときを過ごすという試みも，ここ数年なされている。

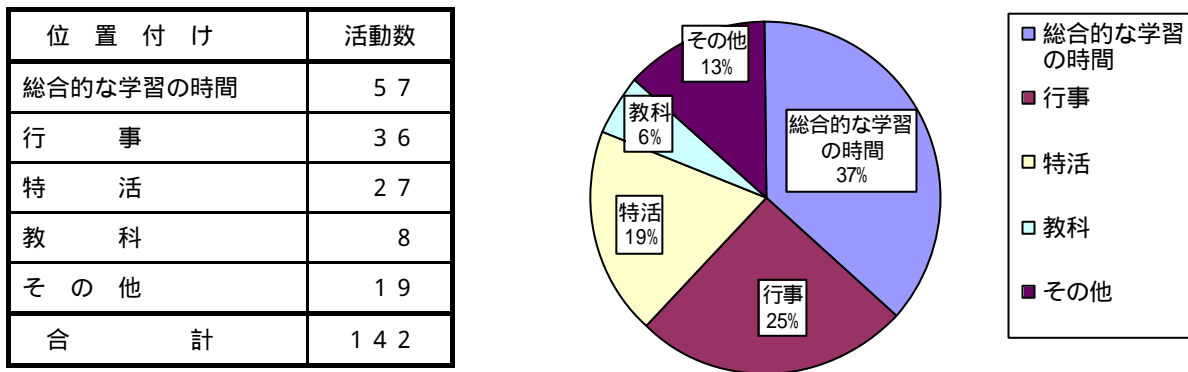
その意味で学校は，一層開かれた情報を提供していくことが求められる。それによって学校の子どものたちの素晴らしさを理解してもらえらるだろうし，また学校が抱える困難な課題についても理解され，協力を仰ぐことも可能だろう。

(3) 活動方法の分析

活動の位置付け

地域と学校が協力して行い成果が得られた活動は，学校教育の中でどのような位置付けで行われたのであろうか。48校から寄せられた133の活動の位置付けは次の通りである。

「特色ある活動」の主な位置付け（活動数で集計：複数回答有）とその割合（円グラフ）



各学校で既に試行されている「総合的な学習の時間」に行われている活動が一番多く，その主なものは，職業体験，地域理解，ボランティア活動等である。文化祭における体験学習，学校祭，体育祭等の行事を通して行われるものがこれに続いている。特別活動として行われている主な活動は，美化活動，募金活動，懇談会等である。

「その他」の主な内訳としては，地域の主催行事が4，部活動の中で行われたものが3であった。

活動の集団

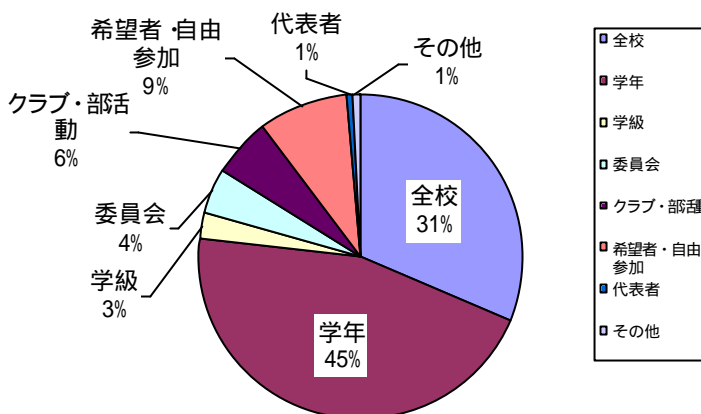
それぞれの活動はどのような集団単位で行われているのであろうか。

学年単位で扱われているものと全校で取り組んでいる活動が圧倒的に多い。学年単位の活動としては，主に総合的な学習の時間に扱われる職場体験，地域学習，ボランティア活動などの校外体験活動

であり、全校で取り組まれるものとしては、文化祭、体育祭、学校祭等の行事的なものや地域行事への参加が多い。

「特色ある活動」の集団（活動数で集計：複数回答有）とその割合（円グラフ）

活動集団	活動数
全校	43
学年	52
学級	4
委員会	6
クラブ・部活動	8
希望者・自由参加	12
代表者	1
その他	1
合計	137

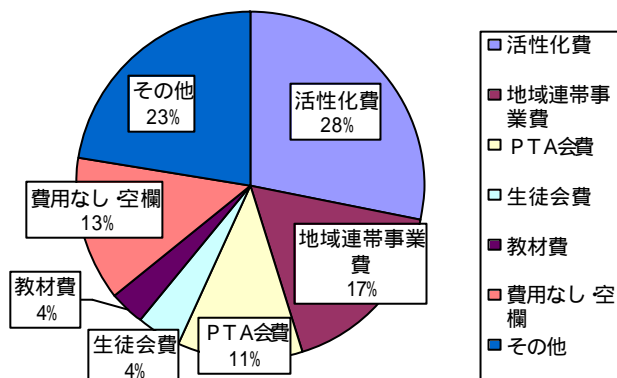


活動の費用

開かれた学校の具現化、「総合的な学習の時間」の創設等により、従来の教育活動にはなかった取組が行われるようになって、そのための予算が大きな問題になっているが、調査時点ではその費用はどのようにまかなわれているのであろうか。

「特色ある活動」の費用（活動数で集計：複数回答有）とその割合（円グラフ）

活動費用	活動数
教育活動活性化事業費	47
学校・地域連帯事業費	29
PTA会費	19
生徒会費	7
教材費	6
費用なし・空欄	22
その他	38
合計	168



費用の出どころとしては、教育活動活性化事業費が一番多く、次いで学校・地域連帯事業費、PTA会費となっている。「その他」の内訳としては、地域教育会議費7、学年活動費3、個人負担3、積立金2、町内会の援助2、進路指導費2、実践研究事業費2、社会福祉協議会援助金2、その他となっている。「その他」という回答が非常に多く、活動の多様性とともな費用の出どころの苦勞が推測される。

特色ある活動を続けていくための費用の問題が多くの学校から指摘されており、大きな課題となっている。

4. 特色ある学校づくりについて

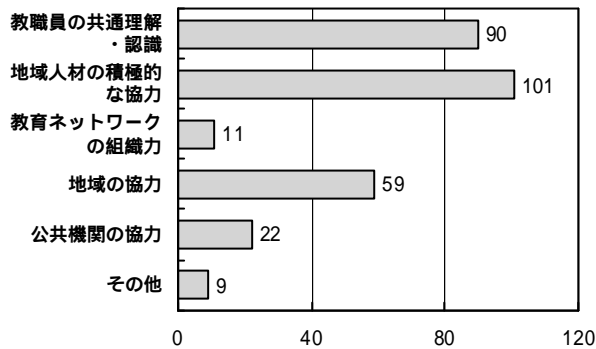
(1) 成果の要因の分類と考察

小・中学校が地域の協力を得て行った特色ある活動の成果が上がった要因はどんなところにあったのか、選択肢による回答の結果は、次の通りである。

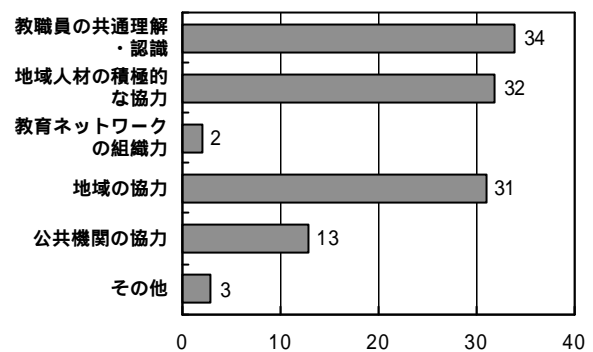
「特色ある活動」の成果が上がった主な要因（校数で集計：複数回答有）

成果が上がった要因	小学校	中学校	全 体
教職員の共通理解・認識	90	34	124
地域人材の積極的な協力	101	32	133
教育ネットワークの組織力	11	2	13
地域（民生委員・町会など）の協力	59	31	90
公共機関の協力	22	13	35
そ の 他	9	3	12
合 計	292	115	407

小学校



中学校



小・中学校の2つのグラフは全体的な形としては非常に似通っているが、小学校では「地域人材の積極的な協力」を選んだ学校が一番多い。これは、小学校においては早くから地域人材の発掘に取り組み、人材バンクを作って校内での活動に大勢の地域の人々を取り込んできたことによると考えられる。中学校においては、職場体験等校外で行う活動を成果が上がった活動例として数多くの学校が挙げている。その成功の要因は地域の協力があってこそで、中学校において「地域の協力」が成功の要因として挙げられている割合が大きいのはそのためと考えられる。

地域と学校が力を合わせて教育活動をしていくためには、何といたっても地域の協力が必要であり、校内においては教職員が共通の認識をもって活動に取り組んでいくことが、成果を上げる重要な要因になっている。

（2）特色ある活動を継続，発展，創造するための課題

教育計画・方策

教育課程の中にきちんと位置付け、子どもにどのような力をつけるのか共通理解し、明確なねらいをもって計画的・継続的に活動を展開していくことが基本的に求められている。そして活動を継続していく中で子どもの意識や主体的なかわりを育て、常に新鮮な視点で活動を見直し、評価することによって特色ある活動がそれぞれの学校の文化として高められていくと考えられる。

地域との関係

特色ある活動を継続・発展させていくには、何といたっても地域の協力が欠かせない。地域の協力をどう得るか、地域人材や職場体験の場の確保、地域のネットワーク化をどのように進めていくかが大きな課題である。そのためにはいわゆる「開かれた学校」を目指して積極的に学校が情報を発信し、学校教育への理解を深めてもらうとともに、地域への啓発と地域組織の活性化、あるいは地域教育会

議等との協力を図っていくことが必要である。そうした中で地域との関係資料の整備と継続するためのシステムやマニュアルをつくっていくことも、将来のために必要と考えられている。「地域に協力してもらうだけでなく、地域の声を活動に反映させたり、地域への配慮や教師自身が地域に出ていたりすることも大切である」という意見も見逃せない。

教職員

何よりも教職員の意識改革と熱意、そして共通理解が第一の課題と考えられている。さらには校内での組織・体制づくり、子どもの発想を尊重した指導・助言ができるコーディネーター役としての教師の指導性の問題、勤務時間との兼ね合い等も小・中学校共通に挙げられている。

条件整備

材料・謝礼などの活動費の確保、研究・研修のための時間の確保、ボランティアや児童生徒の怪我及び事故への対応、設備の充実、人的配置等が課題である。

(3) 校長として求めるもの

経営方針

まず、地域の特性や子どもの実態を見極め、どのような児童生徒を育てようとするのか目標を明確にし、それを全教育課程を通して達成していくカリキュラムを工夫すること。地域に説明できる教育活動を実践し、それに対応した地域の教育力を選定すること、学習形態や学習支援の方法の工夫、評価の在り方、また、それらの課題に全教職員で取り組んでいける体制の構築の大切さが指摘されている。いつの時代にも、「継続は力なり」「子ども、地域、保護者の声に耳を傾ける」ことは大切なことであるという意見もあった。

地域との関係

学校の情報を積極的に提供して学校を開き、地域の理解と信頼を得ること。地域を大切に、地域の教育力と学校の教育力を統合して子どもを育てていくこと。保護者・地域との連携を深めながら地域素材の開発に努めること、そして地域とのネットワーク化を図っていくこと等が指摘されている。

開かれた学校

開かれた学校をどう具現化するか。学校が情報を発信し、垣根を低くして地域の声を取り入れる、地域に出掛けて協力を得る、そういう姿勢が大切である。「公立学校は地域の中に生きるということが大切だ」等の指摘があった。

教職員

教職員の意識改革の必要を指摘する声が圧倒的に多い。教職員が共通理解をした上で、協力体制と組織づくりをし、熱意と行動力をもって実行に移すこと。教職員自身が地域との触れ合いを図ること。企画力・指導力・創造的資質の向上を目指すこと等が期待されている。

校長

校長自らの意識改革、自らが範を示す積極性、地域との触れ合い、学校の歴史の尊重、明るく楽しい働きやすい職場づくり、リーダーシップの独走にならないこと等が挙げられている。

研究のまとめ

1. 研究の成果

学校の特色とは何か、特色ある学校づくりとは具体的にはどうすることなのか。協力いただいたアンケートをつぶさに見ると課題は尽きないが、実に多くの実践がなされていることが読み取れる。これらの実践を見ると、学校が悪戦苦闘しながらも教育活動が地域に根を張り、子どもたちの豊かな学

校生活のために、様々な試行錯誤が繰り返されているという現実が浮かび上がる。

集約すると、特色ある学校づくりのためには、地域との連携は欠くことのできない重要なテーマであり、連携を模索する中から、具体的な触れ合いを通して児童生徒、教職員、地域住民との相互理解が深まっていくといえる。

学校の特色は、「他と違ったもの」を意識してつくられているものではなく、時代と社会の要請、そして地域に生活する子どもたちの夢や未来にどう応えるかを真摯に模索していく中でつくられていくものであろう。

2．今後の課題

人的課題...多様化した子どもの要求に対応できる教職員の人材、地域の人材、またその育成

物的課題...活動内容の多様化に伴う物的精度の高さ、専門用具の要求等、教材、教具、活動に要する物品、消耗品、近隣校との連携

場所、施設の課題...活動内容の多様化による場所の重複使用等、図書館、体育館、グラウンド、公共施設、専門施設

環境...活動の拡大、内容の充実に伴う交通アクセス、自然環境（南北に長い川崎市）

協力体制の構築...教職員の勤務時間、教職員間と地域住民間（各種団体、組織間）、異校種間の連携、さらには校種間の連携等の整合性

活動の継続、深化...学校の伝統と改革、地域社会の伝統と変容との整合性、特色があり、なおかつ信頼される学校づくり

安全確保...健康安全、交通安全、児童生徒の活動上の安全、暴力行為などから身を守る安全、弱者の安全

保険の課題...怪我、病気、事故、器物破損などの補償

休日活動の多面化...土日、休祭日を利用した活動の展開により、休日出勤の増加

3．おわりに

新学習指導要領が全面実施されるにあたり、川崎市学校教育活動支援事業や川崎市学校教育推進会議などの趣旨を生かしながら、今までなされてきた地域の教育力を活用した優れた実践が一層深化・発展し、子どもたちが豊かで充実した学校生活を送れることを念じてやまない。

最後に、ご多忙の中、調査にご協力くださった市内の小・中学校の校長先生をはじめ、関係の先生方に心よりお礼申し上げます。また、遅々として進まぬ研究に対して、温かいご指導ご助言をいただきました牧昌見先生と田島惟克先生に心から感謝の意を表します。

【参考文献】

教育課程審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について」 1998年

熱海則夫他『改訂新学習指導要領の展開』明治図書 1999年

菊池武熙他「地域社会の中での学校の役割」『川崎市総合教育センター研究紀要』第12号 1999年

【指導助言者】

聖徳大学教授

牧 昌見

元川崎市総合教育センター所長

田島 惟克